



台風去りしあとの抜けるような蒼空は、  
槍・穂高連峰はうに及ばず立山～  
剣から後立山方面まで展望できる最  
高のお天気である。肩の左側の日だま  
りには10人ほど食事を始めている。私も  
その横で昼食として作ってもらったお弁当  
を朝食として食べる。山の静けさが...

山来光を拝む。  
5:30 浅間山のずっと右方 秩父連峰と思われる  
右端に朝日が昇る。奥穂高の山頂から輝  
き始める山々の美しさは言葉ではいいつけず、  
素晴らしい。何度見ても飽かない、荘厳な一瞬。

ゴロゴロした浮石に注意しつつ斜降  
しながら高度を下げ、切通岩の鞍  
部まで約200メートルの高度差である。  
道は歩きやすい山道になり走りか  
りるようにして下っていく。途中大天井岳  
直登の分岐に出会う。始めて縦走  
する人たちは汗を流しながら頂上へ登  
っていく。立杭がありジグザグの急斜  
面を下るが、丁度燕山荘を朝出発した  
人たちと出会う時間になり、登りを譲  
りながら槍ヶ岳分岐につく。  
ここでも行列が続く。大天井岳を踏  
んで行く人や、常念へ向う人と槍ヶ岳  
方面の喜作新道へ行く人たちが互い  
に「さようなら」を言い合って別れて行く。  
ひと団体通過してやっとキレットへ到着。

東天井岳肩～大天荘  
東天井岳もピークを踏む人は無さそう。私も  
失礼してなくなつた稜線の西側を下る。  
すぐ石積の山の右側を通りアン部へ下る。  
アン部から砂石の道を緩やかに下り、  
登りながら朝の快調子に乗って乗越して立つ。  
大天井岳が朝陽を受けて明るく大きな三角形  
をして足元長つていように見える。400メートル  
ほど先には大天荘の建物が2棟窓ガラスを  
輝かせながら静かに建っている。ここから大天井岳  
と小屋を入れて写真をとる。あとゆるやかに下り  
おいて小屋の前につく。  
周囲はテント場でテント泊した人たちが朝食  
やテントの後片付けで忙しそうに振り舞っている。  
小屋をスケッチし、北側を通り大天井岳直下の  
肩に出る。ガタガタした岩屑が敷き詰められた  
広場のような平地で、頂上へは10分で行ける  
とみる。今日は飯倉尾まで行く予定のため  
道標に従い燕岳への縦走路を切通岩  
へ下ることにする。

アン部～東天井岳肩  
白い花崗岩のザレを下る道には  
夏の暑めなるコマクサが咲くと本には  
出ている。アン部で稜線近く接近が  
がやがや尾根の西斜面を緩やかに  
登り下りながら、一俣谷に近くなつた  
源流付近は、夏草には美しい花の  
ハクサンチドリ、ハクサンフクロ、キヌカサ、  
マウスユキソウが咲き乱れたところだ。  
道は左へ折れ曲り、谷  
源流の最上部を巻くよう  
にしてザレを急登し始め  
る。東天井岳がヒラミカ  
状に登り上りを見せる。  
肩から5分ほど前まで  
木段を上る。47段上  
がった箇所、東天井岳  
へ直登する木段が分  
岐から上に伸びている。  
あと砂利を一息登り  
木段10段上がれば  
肩に着く。

横通岳へ  
5:40 ザレを背負って今一度振り返  
って眺める。富士山もスッキリ頭を上げ、  
ハゲ岳も島のように浮かんで見える。  
常念岳もモルゲンロードに光輝いている。  
谷田さんも頂上で山来光を眺め  
ていることだろう。丘から縦走路  
へおいて横通岳に向う。名前の通  
りの山でピークは踏まず中腹を緩やかに登  
きながら下っていく。

常念小屋～丘状広場  
9月14日、早朝4時、谷田さんの「起きようー」の大声でみんな飛び起き。  
窓からは星が輝き晴天のようだ。出発準備完了、4時30分、小屋の前  
で谷田さん、稲沢の元気、石田さんを見送る。  
4:35 常念小屋を出る。東の空は白く見えるがまだ暗い。  
星明りによる花崗の軽石の反射で足元は見える。常念岳へ登る  
人たちの懐中電灯の光が中腹下から点々と裾の方に連なって  
早々に登って行く山男、山女の意気込みが感ぜられる。  
私が行く逆コースはまだ誰も行かず、私がトツワを切る。花崗  
岩の白さでU字溝に掘れた登山道はよくわかる。落葉した木立の  
間を寒気を空いて登る。とにかく山来光の拝む箇所まで登るな  
くてはと一念で気合を入れて休まず丘状広場へ立つ。